

# 高野山の開創

弘仁7年(816)、弘法大師空海は高野山に寺院を開くことを請う上表文を朝廷に提出しました。その上表文は、寺を開くのは国家と僧侶のためであり、どうか認めてほしいと願うものでした。空海と親密であった嵯峨天皇は快く勅許を下し、高野山を空海に下賜します。こうして高野山1200年の歴史が始まるのですが、高野山の開創には様々な伝承、説話が加えられ、高野山の開創を彩っています。

修行のため唐(中国)に渡った空海は、唐から帰国する際、密教の根本道場にふさわしい場所を求め、三鈷杵という法具を投げました。日本に帰国した空海は密教の修行道場にふさわしい場所

を探して歩き回ります。大和国宇智郡(奈良県五條市)を歩いていると、2匹の犬を連れた狩人に出会いました。空海が事情を話すと、狩人は、「その場所を知っているので2匹の犬に案内させます。」と言って犬を放ちました。この狩人は高野明神

(狩場明神) という地主神でした。

空海が2匹の犬についていくと、紀伊国天野(和歌山県かつらぎ町)にたどり着きました。そこで、高野山一帯の地主神である丹生明神に出会い、高野山を譲り受けます。高野山に登った空海は、松にかかった三鈷杵を見つけ、この地を密教の根本道場に定め、伽藍を造営しました。その際、最初に建てたのが御社です。そこには、丹生明神、高野明神が祀られました。

松にかかったこの三鈷杵は「飛行三鈷杵」(重要文化財)と呼ばれ、現在も高野山に伝わっています。(高野山開創の説話は諸説あります。)承和2年(835)3月21日、空海は奥之院で入定しました。後を継いだ真然は、伽藍を完成させ高野山の基礎を作り上げました。延喜21年(921)、東寺長者の観賢の奏上により空海は「弘法大師」の諡号を賜りました。「弘法大師空海」として現在も奥之院御廟で禅定しています。



重文 高野大師行状図画(地藏院)。唐より「密教を広めるのに良い土地があれば教えたまえ。」と祈り、三鈷杵を投げた場面。



重文 高野大師行状図画(地藏院)。松にかかった三鈷杵を見つけた場面。現在、伽藍に「三鈷の松」として伝わる。



弘法大師坐像(金剛峯寺)。左を向いた珍しい大師像。その伝承から「盲目大師」と呼ばれる。



重文 高野大師行状図画(地藏院)。狩人(高野明神)に出会った場面。2匹の犬は黒犬2匹と白犬・黒犬1匹ずつのパターンがある。

# 貴族の時代と高野山

## 平安時代

高野山の開創から約 100 年後、平安時代中期、10 世紀頃になると、東寺長者が金剛峯寺座主を兼任するようになり、高野山は東寺の末寺のような立場になりました。加えて、天暦 6 年 (952) の落雷で奥之院御廟が、正暦 5 年 (994) の落雷で大塔、金堂など伽藍の諸堂がそれぞれ焼失し、その影響で高野山は急激に衰退していきました。

しかし、11 世紀に入ると高野山信仰と弘法大師信仰の興隆から、現世安穏と来世善処を願う皇族、貴族の高野山参詣が活発になりました。参詣の都度、彼らが所有する荘園などが寄進され、高野山堂塔や寺院が次々と再建、建立されました。参詣者には、藤原道長、白河天皇、鳥羽上皇など時代の権力者たちが大勢おり、彼らの助力もあって衰退していた高野山は次第に復興されていきました。



重文 大日如来坐像 (金剛峯寺)。高野山最古の彫像で平安時代前期の作。西塔に安置されていた。



国宝 不動堂。暲子内親王の御願で行勝が建立した。もと、一心院谷にあったが、明治に移築した。

堂塔の再建や建立には、西行、行勝、重源などといった勸進僧 (寺院の建立、仏像の造立などのために浄財の寄付を求める僧) の活躍がありました。完成した堂塔には、運慶や快慶といった有名な仏師による仏像が納められました。国宝不動堂の大童子像 (国宝、運慶作)、孔雀堂の本尊、孔雀明王像 (重要文化財、快慶作) などは、現在も高野山に伝わり、高野山霊宝館に収蔵されています。



重文 孔雀明王像 (金剛峯寺)。正治 2 年 (1200)、後鳥羽上皇の御願で建立した孔雀堂の本尊。快慶作。

復興に尽力した者のなかには、貴族社会の中で力をつけ始めた武士も含まれていました。平忠盛、清盛父子は大塔再建の奉行として尽力しました。



重文 両界曼荼羅図【血曼荼羅】(金剛峯寺)。壇上伽藍金堂に掛けられていた両界曼荼羅図。胎藏界曼荼羅の中心、大日如来の宝冠部分は、平清盛の血を混ぜて描いたという。

清盛は自分の頭の血を絵の具に混ぜて描いたとされる「血曼荼羅」(重要文化財) を金堂に奉納したことで知られ、こちらも高野山霊宝館に収蔵されています。

# 武士の時代と高野山

## 鎌倉時代

平安時代末期に起こった源平の争乱では、多くの犠牲者が出たため、高野山では後白河法皇の命を受け、戦没者追悼供養の法会を行いました。争乱の勝者である源頼朝も没後、妻の北条政子によって、高野山に禅定院（現在の金剛三昧院）が建立され、その菩提を弔われました。

鎌倉時代中期には、遍照光院の僧覚敷の発願で、高野山への参詣道に町石を建立する一大事業が起りました。町石建立の寄進者には幕府執権の北条時宗や安達泰盛ら武士が名を連ねました。また、泰盛は高野版という印刷物開版にも尽力し、経典など多くの密教典籍が出版されました。その結果、鎌倉時代後期から室町時代にかけて、密教についての教育と学問（教学）が盛んになりました。



町石。慈尊院～根本大塔～奥之院御廟の間に1町（約109m）ごとに建てられた。

## 室町・戦国・安土桃山時代

室町時代になると、高野山内の寺院と諸大名が師檀関係を結ぶようになりました。師檀関係とは、寺院が大名家の供養を行う代わりに、大名が寺院やその領地を保護する関係です。こ

の関係は江戸時代まで続き、高野山内の各寺院には諸大名ゆかりの文化財が多く伝わりました。また、奥之院の参道には諸大名の供養塔が多数造られました。

安土桃山時代には、天下統一を目指す織田信長により高野山は攻撃されますが、信長が亡くなり窮地を脱します。しかし、次の天下人となった豊臣秀吉の前に、高野山は降伏することになりました。この時、秀吉との交渉を担当した僧侶が木食応其です。秀吉の信頼を得た応其を介して、秀吉から援助を受けた高野山は大きく発展しました。



応其上人像（蓮華定院）。応其は、山内に興山寺と、秀吉の母の菩提寺である青巖寺を建立した。

## 江戸時代



紀伊国名所図会。江戸時代の高野山の町並み。門前に商家が立ち並んでいる。

江戸時代になると、高野山は21,300石の所領を得て、全国の寺社のなかでも最大級の寺院となりました。庶民による参詣も増え、それに伴い職人や町人などが多数常住するようになりました。一方で、室町時代頃からあった、学侶、行人、聖の三つの派閥の対立が激化し、元禄5年(1691)、幕府により行人の寺院約900ヶ寺が取りつぶされました。

# 近代化する高野山

## 明治時代～現在

江戸幕府が倒れ明治政府ができると、<sup>おうべい</sup>欧米文化の影響により、日本は一気に近代化の道を進みます。高野山も時代の変化を受けて、大きく変革していくことになります。

明治2年(1869)、学侶の<sup>せいがん</sup>青巖寺、行人の<sup>こうざんじ</sup>興山寺が合併し、金剛峯寺に改めました。それに伴い、江戸時代まであった学侶、行人、聖の三派は解体されました。同年



総本山金剛峯寺。青巖寺と興山寺が合併して金剛峯寺と改称した。それまでは金剛峯寺といえば、高野山全体のことを意味した。

の<sup>はんせきほうかん</sup>版籍奉還(土地と人民を天皇に返還する政策。)によって、高野山は江戸幕府より与えられていた<sup>はいぶつきしゃく</sup>領地を没収され、<sup>はいせき</sup>経済基盤を失います。さらに、<sup>はいせき</sup>廃仏毀釈(仏教排斥運動)によって、高野山は大きな痛手を被りました。



不動坂口女人堂。参詣を禁止されていた女性のための<sup>さんくじじょ</sup>参籠所。かつては高野山への登り口、<sup>こうやななくち</sup>高野七口にそれぞれ存在したが、現在は不動坂口の女人堂のみ残る。

高野山の開創より続いた<sup>よにんきん</sup>女人禁制も、近代国家では女性蔑視にあたるということで、明治5年(1872)には法的に解除され、明治38年(1905)には女性の<sup>にゆうじゅう</sup>高野山入住が公認されました。

明治21年(1888)には大火災が起こり、多数の寺院が焼失しました。版籍奉還や廃仏毀釈による痛手もあり、多くの寺院は<sup>とうはいごう</sup>統廃合を余儀なくされ、最盛期には約2,000ヶ寺あった寺院も130ヶ寺ほどまで減少しました(現在117ヶ寺)。また、この火災では文化財も多く焼失しました。この事を<sup>うれ</sup>憂えた有志により、大正10年(1921)高野山霊宝館が開設され、現在まで高野山の文化財を守り続けています。それでも昭和元年(1926)には金堂が焼失し、開創以来の本尊を始め、多くの文化財が失われてしまいました。



高野山霊宝館開館式の写真。初代館長<sup>とくきほうりゅう</sup>土宜法龍をはじめ、霊宝館創設に関わったメンバーが写っている。

昭和初期には、高野山への鉄道が開通しました。昭和4年(1929)に<sup>ごくらくばしえき</sup>極楽橋駅まで、翌5年にケーブルカーで高野山駅まで開業し、多くの人々が参拝できるようになりました。こうした時代に応じた変化を経て、やがて現在の高野山の姿へと移り変わっていきました。平成16年(2004)、高野山は「紀伊<sup>れいじょう</sup>山地の<sup>さんけいみち</sup>霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。平成27年(2015)には高野山開創1200年、令和3年(2021)には霊宝館開館100年の大きな節目を迎えました。